

SHIRAKOBATO

しらこぼと



1997. **1**

SOCIETY OF JAPAN · SAITAMA

WILD BIRD



NO. 153

日本野鳥の会 埼玉県支部

これだけ『冬鳥』

「分かる鳥はカラスとハトとスズメ、それにあと一つか二つぐらいかな」という多くの超ビギナーの方々、今月号はそのような方々のための実力養成講座です。

1 これだけは、ぜひ!!

ここで言う冬鳥とは、埼玉県で冬に目立つ鳥たちのこととと思ってください。

その様な中から、身の回りの鳥としてヒヨドリとムクドリの2種をあげました。水辺の鳥としては、カモの4種類（カルガモ、オナガガモ、コガモ、ヒドリガモ）とユリカモメをエントリーしました。以上、冬鳥基本7種です。

2 ヒヨドリとムクドリ

まず、ヒヨドリ。

その昔、平安時代には貴族の間で飼うことが流行し、その鳴き声と羽の色を比べあって楽しんだといひます。さぞかし人をうっとりさせるような声と優美な姿を持った鳥なんだろうなあ、と想像します。

実際の声は、ピーヨ、ピーヨと甲高く、一年中、騒がしい鳥です。この鳴き声から、ヒヨドリの名がつけられたとも言われています。

姿形は、ハトより小さくスズメより大きく、尾が長めで黒っぽく見えます。漢字では「卑」に「鳥」と書き、貴族の鳥のイメージが段々下がってくるようです。

しかし、ある先輩から「仕事に追われ心に余裕がなかった頃、この鳥の目を見て鳥の世界に引きずりこまれたよ」、また別の先輩からは「自閉症の子にヒヨドリを望遠鏡で見せたところ、3年ぶりに笑い、その子の先生や

ヒヨドリ



ムクドリ



お母さんに大変喜ばれたよ」との話を知ることがあります。以来、編集子はヒヨドリを「目千両」と呼んでいます（古い!）。

次はムクドリです。「椋鳥」と書きます。1年中普通に見られます。繁殖期に、戸袋や屋根の隙間に美しい青い卵を産むのはこの鳥です。

しかし何といっても目立つことは、「群れる」事です。日中、農耕地や草原で、スズメより大きく、ちょっとずんぐりしていて、黒っぽい鳥が何十羽という群で一斉に飛び立ったら、それは多分ムクドリです。

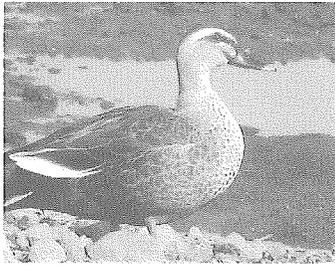
そして夕焼けにはまだ少し時間がある頃、川などでもう少し大きい集団で水浴びをしていたら、これもムクドリです。

やがて夕焼けの頃、集団はさらに大きくなり、数千、時には数万の大集団となって飛び回っていたら、それは絶対にムクドリです。同じ頃、電線にズラッと並んでいるのもムクドリです。日が沈む頃、大群は一つの森や竹やぶのねぐらに入り、夜を過ごします。

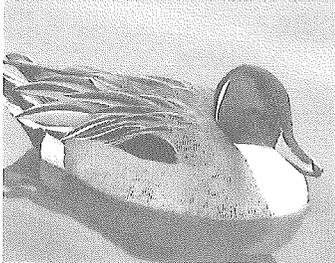
3 カモ基本4種

冬の季節は、樹々もすっかり葉を落し、水辺の草も枯れて、最も鳥を見やすい季節なのです。それにチラッ、チラッとしか見ることのできない山野の鳥に比べて、冬のカモたちは見通しのきく水面やその岸辺にゆったりと群れていることが多く、また、体も大きいのでじっくり見ることができます。超ビギナーの方達はカモから始めるのが一番です。

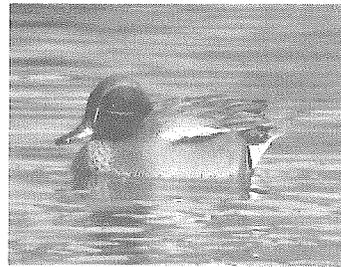
カルガモ



オナガガモ



コガモ



ヒドリガモ



そのカモにもたくさんの種類がありますが、ここ埼玉県では、カルガモ、コガモ、オナガガモ、ヒドリガモの4種が基本でしょう。

カルガモは「軽鴨」と書いても一番大きく見えます。全体的にはベージュ色で、くちばしの先の目立つ黄色がポイントです。英名 Spot-billed (斑点のあるくちばし) がその特徴を良く表しています。陸に上がるとオレンジ色の足も目立ちます。

毎年のように、大手町三井物産ビルの人工池での繁殖が報道されますが、初夏になると県内あちらこちらの探鳥会でかわいい親子づれに合うことができます。

コガモ (小鴨) は世界で最も小型のカモだそうです。♂は栗色の頭に緑色のアイマスク模様です。

オナガガモ (尾長鴨) は、英名 Pintail の語感から、ピンと尖った尾を連想すればそのまま♂の特徴になります。その長い尾の助けもあって、全体的にスマートに見えます。

蛇足ですが、オナガドリは四国地方の尾の長いニワトリで、オナガはカラスの仲間です。まったく似ても似つかない鳥たちです。

ユリカモメ



ヒドリガモ (緋鳥鴨) ♂は、茶色の顔にクリーム色の額です。

なお、カルガモは雌雄同色ですが、他の3種の♀は大変地味で、識別はベテランに任せましょう。

4 ユリカモメ

この季節に埼玉県にいるカモメの仲間は大多数がこのユリカモメ (百合鴨) です。大きな群になっているときもあります。

毎朝、東京湾から各河川沿いに餌を求めて飛んで来ては、夕方帰っていく近距離通勤者だと先輩が教えてくれました。我が身を見る思いで眺めている編集者と決定的に違うのはその姿で、全身が百合のように白くスマートであること、くちばしと脚が朱色となかなか上品であることです。

また在原業平に墨田川で、

「名にしおはばいざこと問はむ都鳥

わが思う人はありやしやと」

と詠まれた都鳥は、このユリカモメのこととされています。舞台は、きっと今の「言問橋」、「業平橋」あたりでしょう。ちなみに、東京都の鳥はユリカモメです。

このように伊勢物語まで登場し、歌にまで詠まれると、そこはかたなく気品さえ感じてくるのです。しかし鳴声は、上品さや気品とは別のようです。

以上7種を覚えられたら、どんどん分かる鳥が増えていくことうけあいです。まずは、外に出てみましょう。 (山部直喜)

1996年秋 シギ・チドリ類調査報告

日本野鳥の会埼玉県支部研究部

日時：1996年9月15日

* 9:30～11:30 大久保農耕地

* 10:00～11:30 入間川

天候：晴れ

9月15日に埼玉県内のシギ・チドリ類の調査が行われました。前日雨を降らせた低気圧が三陸沖に進み、日本付近は高気圧に覆われて、晴れました。

支部会員13名のご協力が得られました。ご苦労さまでした。

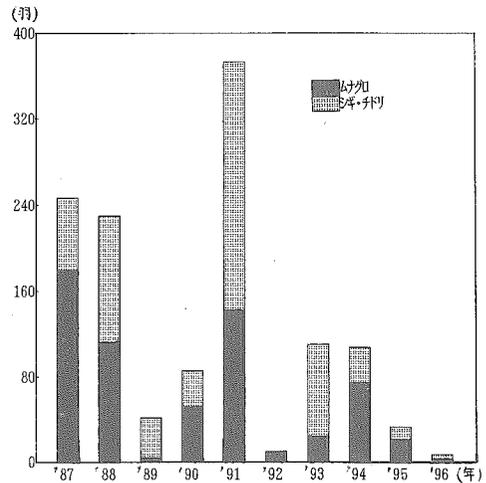
2地点で観察された種数・個体数は5種10羽で、昨年の秋と比較すると、種数は同じですが、個体数で25羽少なくなっています。

大久保農耕地では、稲の刈り取り後ほとんど雨が降らず、水田には水がつかない状態が1週間前まで続きました。そのためか、個体数では'92年の10羽を下まわり、調査を始めてから最低の結果でした。

グラフは、秋のカウント結果の内、大久保農耕地におけるムナグロとそれ以外のシギ・チドリ類の個体数をまとめたものです。秋の

大久保農耕地では、刈り取りの時期や刈り取り後の降水量などの他に、毎年調査日は一定なのに、渡りのピークが年によって変動することも、調査結果に大きな影響をあたえていると思われます。(石井 智)

秋のカウント結果の内、大久保農耕地におけるムナグロとそれ以外のシギ・チドリ類の個体数の変化



表：1996年秋 シギ・チドリ類調査結果

調査地	大久保農耕地 浦和市／大宮市			入間川：狭山市 (豊水橋～新富士見橋)		
	1994年	1995年	1996年	1994年	1995年	1996年
鳥種						
コチドリ	11	1	—	—	—	—
イカルチドリ	—	—	—	—	1	—
ムナグロ	74	21	3	—	—	—
クサシギ	1	—	1	—	—	—
キアシシギ	—	—	—	—	1	—
イソシギ	—	—	—	5	—	3
オオジシギ	—	—	2	—	—	—
タシギ	19	11	1	—	—	—
ジシギSP.	2	—	—	—	—	—
個体数合計	108	33	7	5	2	3
種数合計	5	3	4	1	2	1

日本野鳥の会のみな様へ

長 さとみ (与野南中2年)

その節は大変お忙しい中、時間をさいいただき、本当にありがとうございました。

お話し下さったことは、いただいた資料や私達の感想と共に模造紙にまとめて、9月29日の文化祭で展示しました。私自身も野鳥の保護法などについて知ることができましたし、みな様の鳥に関する強いお気持ちも知ることが出来ました。それらのことは色々な面での勉強になりました。

これからもテストや色々な行事があると思いますが、このことをきっかけにがんばっていきましょう。そして将来は、自分の好きだといえる職業につきたいです。

野鳥を保護するという事は簡単なことではなく、とても大変なことだと思いますが、これからもがんばって下さい。

(文化祭に関する指導への礼状、ほか5通)

秋の彩り・戸隠探鳥会

齊藤俊雄 (岩槻市)

戸隠神社一の鳥居に着いた私たちを迎えてくれたのは、色とりどりの紅葉であった。ヤマウルシ、イロハモミジ、オオイタヤメイゲツの赤。カラマツ、イタヤカエデ、ダンコウバイの黄。コシアブラはレモン色に透けている。落葉が敷きつめられている道。枯れ葉を踏みしめる音が、耳に優しく響いた。

初めに現れた鳥は、マヒワとアトリの群れであった。枯れ枝に咲く黄色とオレンジの花は、紅葉に勝るとも劣らない美しさだった。

広場では、ゴジュウカラによる逆立ちの曲芸を楽しむことができた。キクイタダキも、ちょっとだけ顔をのぞかせてくれた。

林の中では、エナガをリーダーとしたカラ類の混群に出会った。エナガのユーモラスな顔は、あまりにリーダー的ではなく、何となくおかしい。しばしの喧騒に、暗い林の中がひとときわ明るくなった。

奥田旅館に着くと同時にみぞれが降り出した。今年は例年より寒さが厳しいようだ。

「明日は雪」という天気予報がはずれることを願いながら、眠りについた。

翌日、天気予報は見事にはずれ、外は青空。その青空を、イヌワシが雄大に飛んでいた…らしい。知らせを受けて慌てて旅館を飛

明けまして

おめでとうございます。

会員の皆様には清々しい新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

家庭で、海外で、あるいは雪に覆われたフィールドで、それぞれの正月を楽しんでおられることと思います。

さて願ひますと、波乱の発足以来11年、苦難の道を歩んで参りましたが、皆様のご尽力で『親しみ易い支部』という定評を築きあげて参りました。年間百回以上の探鳥会、定期的なリーダー研修会、または会員のビデオ映像の放映などで全国的に評価されていることは当支部の誇りとするところであります。

反面、支部会員数を見ますと、現在2700人と、殆ど横這い状態を示しています。昨年は年頭にあたり皆さんの『ボランティア精神』の惜しみないご提供をお願い致しましたが、本年の課題として『会員数の停滞状態をみんなで振り返って考えよう』ではありませんか。何故増えないのか？ なにかアピールするものが不足か？ または無闇に会員数を増やすのが良いとは限らないのか？ 現状で良いのか？

また本年も会員、役員、リーダーの皆さん、一丸となって吾が支部を盛り立ててゆこうではありませんか。

日本野鳥の会埼玉県支部長 松井昭吾



び出したが、時すでに遅し、イヌワシは飛び去り、トビが申し訳なさそうに上空を舞っていた。

森林公園に着くと、正面に見える戸隠連峰の稜線に、霧氷が白く輝いていた。

マユミ、イチイ、リンボク、ツルマサキ。例年より早く葉を落した林の中は、赤やオレンジの実がよく目立つ。その実を、ツグミやアカハラ、シロハラ、マミチャジナイがしきりについばんでいた。途中、ミソサザイとキバシリも顔を見せてくれた。

戸隠牧場では、温かいキノコ汁が待っていた。トビとハイタカの飛行を眺めながらの食事に、胸もお腹もいっぱいになった。

伊良湖岬のサシバの渡り

藤掛保司（川越市）

9月28日（土）タカの渡り調査の下見で飯能市天覧山に登り、佐久間幹事ほか10数名で午前8時から12時の間に270羽を確認。50数羽のタカ柱も見ることができました。伊良湖岬ではもっともですよとの情報に、期待でもう胸がイッパイ。

10月5日（土）鳥好き仲間6名が東京駅に集合。早くも事前配付資料やワシタカハンドブック等で話が弾み、新幹線で豊橋駅までアッと言う間。豊橋駅で更に3名が合流して、伊良湖岬までバスで約1時間30分。

恋路ヶ浜駐車場まで少し遠回りして、水平線のオオミズナギドリや足元のナンバンギセルの花を見て、おいしそうなおアサリの説明を聞いたりしながら、松井支部長の待つ観察場所に到着。

この時期、車で来た人も含めて埼玉県支部30数名。探鳥会を開催しているかの錯覚に。東京支部、神奈川県支部、京都支部などの大型バスツアーにマイカー組、浜辺にテント泊組などで、6日（日）早朝には約2,000名のバードウォッチャーで賑わいました。

伊良湖岬の渡り鳥を記録する会のメイン会場に案内していただき、ダブルスコープ（2台のスコープを双眼鏡のように組み合わせたもの）で、サシバの成鳥・幼鳥、ハチクマの白色・中間色・黒色タイプ何羽と読み上げては記録する様子を驚きました。

サシバ・ハチクマ・ハヤブサ・チゴハヤブサ・アカハラダカなどの猛禽類と小鳥類の渡り、特に、あのヒヨドリが、200から1,000羽単位で、山間や海面すれすれに渡る様子は、とても想像だにしない出会いでした。

7日（月）までの2泊3日、日の出から日没まで空を見上げて、期待通りのすばらしい渡りに、感激イッパイの旅でした。

熊本からの便り

三田長久（熊本県支部）

埼玉県を離れて半年がたちました。私は自転車で10分位の立田山をフィールドにしております、休みの日は殆どいつも通っています。新しい職場の熊本大学も近くなので、昼休みにもよく出かけます。昨日（10月19日）はサンショウクイ、エゾビタキ、コサメビタキ、キビタキ、ジョウビタキ等が見られました。ジョウビタキはこの日が初認なので、昨年はどうだったかなと埼玉県での記録を調べたので、古巣を思い出し、お便りをしています。

エナガ、ヤマガラ、メジロは個体数が多くあちこちで見られます。春にはマミチャジナイやマミジロも見ましたし、先週にはサメビタキも何度か見ました。小鳥の渡りのルートになっているようです。今日（10月20日）はシロハラやアリスイも見ました。

この立田山での写真入りの観察記録をホームページで発信していますので、御覧ください。アドレスは：<http://www.eecs.kumamoto-u.ac.jp/.eecs/labs/mita-t.html>です。

熊本県支部では、編集会議や袋詰めを熊本大学でやっているの、私もお手伝いしなくてはと思っています。7月にはインターネットを使ったバーチャル探鳥会を熊本県支部の行事として私の研究室で開こうとしたのですが、停電になってひどい目にあったりしました。

そうそう、このあいだの夜、私の研究室のすぐ横のクスノキにフクロウが来て鳴いていました。近くには白川も流れており、冬にはカモがたくさん来るそうなので、ますます楽しくなってきそうです。

電子メールをお使いの方は、アドレス：mita@eecs.kumamoto-u.ac.jpへお便り下さい。

どこかの探鳥地でまたお会いしましょう。

表紙の写真

イヌワシ（ワシタカ科）

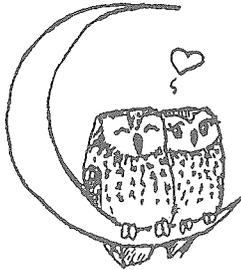
皆さんも御存知の滋賀県伊吹山。

10月10日木曜日（体育の日・休日）から、3泊4日の車中泊を重ねた末、10月13日の日

曜日に70～80メートルの至近距離で、まともに撮影できました。

感激しました。 佐藤 進（大宮市）

行事あんない



(渡辺 敦)

特別な場合を除いて予約申し込みの必要はありません。初めての方も、青い腕章をした担当者に遠慮なく声をおかけください。私達もあなたを探していますので、ご心配なく。

参加費は一般100円。会員と中学生以下50円。持ち物は、筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋、もしあれば双眼鏡など。解散時刻は、特に記載のない場合、正午から午後1時頃。小雨決行です。

自然保護のため、できるだけ電車バスなどをご利用のうえ、指定の集合場所までおいでください。

北川辺町・渡良瀬遊水地探鳥会

期日：1月5日（日）

集合：午前9時10分 東武日光線柳生駅前、
または午前9時30分中央エントランス
駐車場

交通：JR宇都宮線大宮8:01発→栗橋8:30着、
栗橋にて東武日光線乗り換え8:53発→
9:02着

担当：新堂、中島（康）、松井、内田、入
山、五十嵐、篠原（五）

見どころ：冬の渡良瀬遊水地の定番は湖面に
群がるカモとカイツブリの仲間。通称
タカミ台まで足をのばせばワシタカ
類。現地は風は冷たいので防寒は入念
に。

久喜市・昭和池探鳥会

期日：1月11日（土）

集合：午前9時30分 昭和池駐車場。公共交
通の便がありません。タクシー等の利
用の場合は、JR宇都宮線白岡駅からが
近いです。

担当：中島（康）、松井、浅田、玉井、内田
見どころ：1月の探鳥会は2年ぶり、年々カ
モ類の飛来数が減ってしまった昭和池
ですが、それでも4000羽位は来てくれ
ているでしょう。その中からトモエガ
モ、アメリカヒドリ等を探しましょ
う。

春日部市・内牧公園探鳥会

期日：1月12日（日）

集合：午前8時30分 東武伊勢崎線春日部駅
西口東武バス1番バス停前、集合後バ
スで現地へ。または午前9時15分アス
レチック公園前駐車場

担当：吉安、中村（栄）、篠原（東）、入
山、橋口、松永

見どころ：初春の探鳥を春日部の外れの里山
で楽しんでみませんか。雑木林の中で
ジョウビタキ、ヤマガラ、シメ、カケ
ス、そして刈田の中にタゲリ、タヒバ
リ、ヒバリなどを探しましょう。

熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日：1月12日（日）

集合：午前9時30分 秩父鉄道大麻生駅前
交通：秩父鉄道熊谷9:11発、または寄居9:30
発に乗車

担当：和田、森本、小池、榎本、町田、岡安、
中島（章）、石井（博）、倉崎、松本

見どころ：正月気分を抜くために初春の野道
を歩いてみませんか。毎年多くの鳥が
楽しめる1月です。今年の1年の計を
鳥で占ってみましょう。大吉と出ると
嬉しいですね。

千葉県・船橋海浜公園探鳥会

期日：1月12日（日）

集合：午前9時45分 JR総武線船橋駅改札口

集合後バス10:03発にて現地へ

交通：JR武蔵野線南浦和8:45→西船橋乗り換えにて船橋下車

担当：杉本、佐久間、菱沼（一）、篠原（東）

見どころ：1万羽を越すスズガモや海ガモの仲間、カンムリカヅブリ、ウミアイサ等を見ながら来ているはずのミヤコドリも探しましょう。それにしても三番瀬には餌が豊富にあるんですね。



(11月17日・三室地区定例探鳥会)

浦和市・三室地区定例探鳥会

期日：1月19日（日）

集合：午前8時15分 京浜東北線北浦和駅東口、集合後バスで現地へ。または午前9時浦和市立郷土博物館前

後援：浦和市立郷土博物館

担当：楠見、福井、手塚、伊藤、渡辺（周）、笠原、倉林、若林、岡部、嶋田、森

見どころ：支部活動の原点ともなっている三室地区の鳥見開きです。今年のスタートを元気に、親切に、縁起よく切っていきたいものです。

吉見町・吉見百穴周辺探鳥会

期日：1月19日（日）

集合：午前9時30分 吉見百穴入口前

交通：JR高崎線鴻巣駅東口、中村カメラ店前より東松山行きバス8:53発にて「百穴入口」下車、徒歩5分。駐車場利用者は百穴入園券（150円）を購入しフロントから見えるように置いて下さい。

担当：榎本、岡安、内藤、藤掛、立岩、青

山、島田

見どころ：冴え返る朝、澄んだ空気の中を湖畔の散策。吉見百穴から大沼まで鳥影を探して歩きます。

宮城県・伊豆沼探鳥会（要予約）

期日：1月25日（土）～26日（日）

定員に達したため締め切りました。

『しらこぼと』袋づめの会

とき：1月25日（土）午後1時～2時ごろ

会場：支部事務局108号室

狭山市・入間川定例探鳥会

期日：1月26日（日）

集合：午前9時 西武新宿線狭山市駅西口

交通：西武新宿線所沢8:45発、本川越8:43発に乗車

解散：稲荷山公園にて正午頃

担当：長谷部、高草木、藤掛、石井（幸）、小野、中村（祐）、山本、久保田

見どころ：平地でのバードウォッチングは冬の季節が最高！すごい見せ場はないけれど、厳しい季節を過ごすカモや小鳥達の生活をそっと観察。

長瀬町・長瀬探鳥会

期日：1月26日（日）

集合：午前9時30分 秩父鉄道長瀬駅前

交通：秩父鉄道熊谷8:23発、またはお花畑9:01発（西武鉄道所沢7:43発が接続しています。）に乗車

担当：小池、佐久間、町田、青山、林（滋）、岡野、井上、堀

見どころ：1月は人影もまばらで静かな季節です。オシドリ、アオジ、カシラダカ、荒川の流れ、宝来島公園、沢山の長瀬の冬景色を堪能してください。

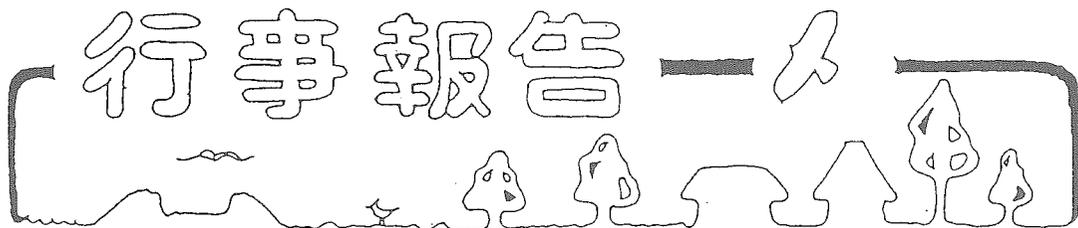
2月1日（土）：大宮花の丘公園探鳥会

2月2日（日）：北本市石戸宿定例探鳥会

：長野県軽井沢探鳥会

：浦和市民家園周辺探鳥会

行事報告



10月6日(日) 北本市 石戸宿
参加: 31人 天気: 曇

カイツブリ カワウ マガモ カルガモ コガモ
オオタカ コジュケイ キジ バン キジバト
アオゲラ アカゲラ コゲラ ツバメ ハクセキ
レイ ヒヨドリ モズ エゾビタキ エナガ シ
ジュウカラ メジロ ホオジロ カワラヒワ ス
ズメ ムクドリ カケス ハシボソガラス ハシ
ブトガラス (28種) 河原の高い枯れ木に止まった
オオタカをカラスがモビングしていた。キジが車
のよく通る桜堤を横切る珍しい姿が見られた。フ
ライングキャッチするエゾビタキも2回観察でき、
カワウの編隊が3度も出現。お目当てのサシバの
見送りができなかったことが心残り。(岡安征也)

10月12日(土) 北川辺町 渡良瀬遊水地
参加: 38人 天気: 曇

カイツブリ カワウ ダイサギ アオサギ マガ
モ カルガモ コガモ ヒドリガモ オナガガモ
ハシビロガモ ホシハジロ キンクロハジロ ミ
サゴ トビ ノスリ チョウゲンボウ キジ ユ
リカモメ キジバト アマツバメ カワセミ ヒ
バリ ショウドウツバメ ツバメ ヒヨドリ モ
ズ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ
オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (33種)
天候悪化予報のため、まず新赤間橋(通称タカミ
台)へ直行。ミサゴ、トビ、ノスリ、チョウゲン
ボウは出現してくれたが、ここの定番のチュウヒ
が姿を見せなかったのは残念。早目に旧谷中村跡
に移動。湖上に群がる数百羽のカモ類を遠望。エ
クリプス羽、繁殖期羽入り交じって8種を観察。
当所初参加の人も数人いて、トリミともども広大
なこの地の風景を楽しんだ。(新堂克浩)

10月13日(日) 熊谷市 大麻生
参加: 51人 天気: 晴

カイツブリ カワウ コサギ カルガモ トビ
オオタカ ノスリ ハヤブサ コジュケイ キジ
バト カワセミ アカゲラ コゲラ ヒバリ ハ

クセキレイ セグロセキレイ ビンズイ ヒヨドリ
モズ ノビタキ エゾビタキ シジュウカラ
メジロ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクド
リ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス
(30種) 秋晴れの空にはオオタカ、ノスリ、ハヤ
ブサといった猛禽が似合います。特に、鉄塔で休
憩中のハヤブサ君を、全員でじっくりウォッチン
グできたのはラッキーでした。押切河原は、コシ
オガマが小さなピンクの花を咲かせ、コオロギが
あちこちで鳴き、秋を感じさせてくれました。お
目当てのノビタキは、数人が確認できただけで残
念でしたが、エゾビタキは全員が見ることができ
ました。(小池一男)

10月20日(日) 浦和市 三室地区
参加: 74人 天気: 晴

カワウ ダイサギ コサギ アオサギ ヨシゴイ
カルガモ コガモ オナガガモ バン イソギ
タシギ キジバト コゲラ ヒバリ ハクセキ
レイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ シジュウカ
ラ メジロ ホオジロ カワラヒワ スズメ ム
クドリ カケス ハシボソガラス ハシブトガ
ラス (27種) 快晴で、選挙日だからなどと参加者を
予想していたら、久しぶりの74名の参加者でした。
ご褒美に148回の例会で初めてヨシゴイが出現し
ました。三室もたまには珍しい鳥が出るのですよ。
そして、早くもジョウビタキが出た楽しい探鳥会
でした。(楠見邦博)

10月26日(土) 『しらこぼと』袋づめの会
ボランティア: 15人

荒木恒夫、石井博、岩上照代、江浪功、海老原教
子、海老原美夫、倉林宗太郎、佐久間博文、櫻庭
勇、陶山和良、中村榮男、原田謙、福島眞次、谷
津弘子、渡辺喜八郎

10月26~27日(土~日) 長野県戸隠・飯綱高原
参加: 26人 天気: 26・曇 27・晴

カイツブリ ハジロカイツブリ カルガモ ヒド

リガモ キンクロハジロ トビ ハイタカ イヌワシ タカsp キジ キジバト アオゲラ アカゲラ コゲラ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ミソサザイ アカハラ シロハラ マミチャジナイ ツグミ キクイタダキ エナガ コガラ ヒガラ ヤマガラ シジュウカラ ウグイス ゴジュウカラ キバシリ メジロ ホオジロ カシラダカ ミヤマホオジロ アオジ アトリ カワラヒワ マヒワ スズメ ムクドリ カケス オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (45種) 途中で雨が降ったが、バスが一の鳥居に着く頃には、薄日が差してきた。そこは紅葉の真っ盛り。冬の訪れが早そうだ。去年はほとんど見られなかったマヒワ、アトリの群れが出迎えてくれた。別荘地を大座法師池に向かう途中で、鮮やかに赤いマユミの実を食べるコゲラに出会った。27日の朝食前には、ヤマグリを捨てては貯食するカケス、イチイの実を食べるマミチャジナイなどの収穫。森林植物園はもう冬の装い。シロハラやミソサザイ、キバシリなどが見られたが、残念ながらキビタキやムギマキには出会えなかった。(菱沼一充)

10月27日(日) 川越市 西川越
参加: 31人 天気: 晴

カイツブリ カワウ コサギ マガモ カルガモ コガモ オナガガモ トビ キジ バン イカルチドリ タゲリ イソシギ キジバト カワセミ アカゲラ ヒバリ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ヒガラ シジュウカラ メジロ ホオジロ アオジ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (34種) 野原の真ん中に新堤防ができていて、皆びっくり。やむなくコースを変更。それでもカワセミをしっかりと見られ、タゲリも今季初認。コガモが川岸のタデの実を背伸びしながら食べていた。(佐久間博文)

11月3日(日) 上尾市 丸山公園
参加: 28人 天気: 曇

カイツブリ ミズナギドリsp カワウ ダイサギ コサギ コハクチョウ カルガモ コガモ オナガガモ チョウゲンボウ コジュケイ キジバト カワセミ コゲラ ヒバリ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ ヒガラ ヤマガラ シジュウカラ メジロ ホオジロ アオジ カワラヒワ

シメ スズメ ムクドリ カケス オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (36種) 公園内は人出が多く、鳥は殆ど見られず。早々に荒川の土手に出ると、コハクチョウが9羽編隊で頭上を飛ぶ。これには皆ビックリ。冬鳥のジョウビタキ、シメ、アオジ、ツグミ等も出て、皆大喜び。また、ミズナギドリ類と思われる大型の海鳥が1羽、東に向かって頭上を飛んだ。(櫻庭 勇)

11月3日(日) 富士見市 柳瀬川
参加: 36人 天気: 曇

カワウ コサギ マガモ カルガモ コガモ ヒドリガモ オナガガモ ホシハジロ タゲリ イソシギ ユリカモメ キジバト ヒバリ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ツグミ セッカ シジュウカラ ホオジロ アオジ カワラヒワ マヒワ シメ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (30種) 前日の雨が止み、曇空の下で期待のタゲリがお出迎え。カモ類の数は少ないがヒドリガモをゆっくり見られる。航空ショーの飛行機雲が流れる下で紙芝居を使つての鳥合わせ。(高草木泰行)

11月3~4日(日~月) 長野県 白馬山麓
参加: 25人 天気: 晴

カンムリカイツブリ カワウ ダイサギ コサギ アオサギ マガモ カルガモ コガモ トビ オオタカ ノスリ キジバト アオゲラ アカゲラ コゲラ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ルリビタキ ジョウビタキ アカハラ シロハラ マミチャジナイ ツグミ ウグイス エナガ コガラ ヒガラ ヤマガラ シジュウカラ ゴジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ ミヤマホオジロ アオジ アトリ カワラヒワ ベニマシコ イカル スズメ ムクドリ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス (47種) 第1目的地の唐花見湿原で早くもマミチャジナイに面会。ついでにベニマシコにも。鷹狩山では、「山々の勇姿」、ケージの中のフクロウ&ライチョウ。青木湖では、紅葉と落葉の舞い。露天風呂の後は、一步でくつろぐ。鳥のビデオも皆さん一段と「ウデ」が上がり、ボルテージも上がる。期待した翌朝の「モルゲンロード」は、霧に包まれて鳥も少なく、やや落込んでいたところ、雲海の上に金色に輝く白馬三山。すばらしい自然のドラマを満喫。(町田好一郎)

連 絡 中 長

●密猟対策連絡会全国大会に参加

10月19日(土)～20日(日)の2日間、栃木県西那須野町で「野鳥密猟問題シンポジウムin栃木」が開催され、当支部を代表して、県の鳥獣保護員でもある福井恒人幹事が参加しました。

1日目はWWF・J石原明子氏の講演、日本オオタカネットワーク、エコシステムの活動報告、「各地における密猟実態と野鳥の輸入について」をテーマとしたパネルディスカッション、2日目は、「国内の野鳥密猟をなくすには」と「野生鳥獣の国際取引の問題」の2分科会に分かれて議論を重ね、アピール文を採択して閉会しました。

●自然観察公園園地管理説明会に出席

10月25日(金)、北本市の県自然観察公園の園地管理について、管理者である大宮公園事務所の説明会が開催され、当支部の松井昭吾支部長、岡安征也幹事をはじめとして、関係自然保護団体5団体から計10名が出席。

高尾ふるさとの森の雑木林としての機能を再生するための部分的皆伐、流入水浄化のための浄化沼浚渫、高尾の池の水位と水面保全のためのヨシの伐採や池の掘削、車椅子のための園路改修などの方針が説明されました。

都市公園としての自然生態観察公園の管理については、全国的にも歴史が浅く、試行錯誤的な部分がありますが、現状を踏まえて当面実施すべきものから実施していくとのことでした。

●バードソン公式チームメンバー決定

11月9日(土)支部事務局で打ち合わせが行われ、工藤洋三幹事をキャプテンに、倉林宗太郎幹事、玉井正晴会員、藤掛保司幹事がメンバーとして参加、兼元義裕会員がドライバーをつとめることになりました。

昨年より少し若返って、チーム名は「フレッシュしらこぼと」。1997年5月11日(日)に向けて、ご支援をお願いします。

●第7回オオタカ保護シンポジウム

本年は、環境庁による『猛禽類保護の進め方』が発行されるなどの進展もありました。

150名の参加者が集まった前回に引き続き、今回は「オオタカの生態や保護活動に関する報告・発表」と「人とワシタカ類の共生」をテーマに開催。どなたでも、また、1日だけの参加もできます。

1997年1月18日(土)14:00～17:00、ひたちなか市国営ひたち海浜公園でオオタカ生息地視察。常陸太田市内のホテルで宿泊、懇親会。19日(日)9:30～16:00、常陸太田市南部農協会館でシンポジウム。

参加費用：1日目視察2,000円、懇親会宿泊朝食代11,000円、懇親会のみ7,500円、シンポジウム2,000円、1/19昼食代1,000円。

申込・問合せ：〒内622-5新井真方、日本オオタカネットワーク、FAX

●1月の事務局 土曜と日曜の予定

- 11日(土) 編集会議、研究部会議。
- 18日(土) 『しらこぼと』2月号校正作業。
- 18日(土) 役員会議(仮日程)。
- 25日(土) 『しらこぼと』袋づめの会。

●会員数は

12月2日現在当支部2,712人、全国で49,918人です。

活 動 報 告

11月17日(日) 役員会議(司会：中村榮男、事務局賃貸借契約更新・関東ブロック協議会分科会議議・その他)。

11月22日(金) 普及部により役員リーダーに発送(楠見文字、海老原教子)。

11月23日(土) 12月号校正作業(喜多峻次、佐久間博文、海老原美夫)。

編 集 後 記

まだ編集作業中。特集記事担当の編集部長が未着なのだ。でも編集後記を書き始めちゃえ。いつも通りなんとかなるさ。(海)

最近、樹の識別の勉強を始めた。20年以上も、この辺の雑木林を歩き回っていながら、クヌギやコナラもわかっていなかったとは我ながら恥ずかしい。樹の識別はむずかしいけれど、面白い。これだから自然とのつき合いはやめられません。(小林みどり)

『しらこぼと』1997年1月号(第153号) 定価100円(会員の購読料は会費に含まれます)
発行人 松井昭吾 編集発行 日本野鳥の会埼玉支部 TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460
〒336 浦和市岸町4丁目26番8号 プリムローズ岸町107号 郵便振替 00190-3-121130
印刷 関東図書株式会社 (本誌掲載記事の無断転載はかたくお断わりします)